



ミャンマーで発見されたツリフネソウがWWFの大メコン圏 新種ハイライトとして紹介されました

独立行政法人国立科学博物館(館長:林 良博)の田中 伸幸(植物研究部 陸上植物研究グループ)が2015年に新種として発表したツリフネソウの一種「*Impatiens kingdon-wardii* Nob.Tanaka & T. Sugaw.」が、世界自然保護基金(WWF)の東南アジア大陸部から発見された新種生物の“New Species Report 2015 - Great highlight among the new discoveries”に選ばれました。

「WWF新種レポート (WWF New Species Report)」は世界自然保護基金 (WWF : 本部ジュネーブ) が、大メコン圏 (中国南西部を含む東南アジア大陸部) の特筆すべき生物多様性を紹介することで、同地域の多様性保全活動に役立てることを目的として、同地域から新種として報告された中から顕著な特徴をもつ10種を選定し、2008年からウェブサイトに取り上げてきました。

2016年12月に発表された2015年中の新種レポートでは、同地域から新種として報告された動植物は163種で、その中からこの10種に選ばれた植物は2種あり、その内の1種が本種になります。

表題 : WWF New Species Report 2015 - Great highlight among the new discoveries
(WWF新種レポート2015の中のハイライト10種)

選考組織 : World Wide Fund for Nature (WWF : 世界自然保護基金)

ウェブサイト : http://wwf.panda.org/what_we_do/where_we_work/greatermekong/discovering_the_greater_mekong/species/new_species/species_oddity/

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当 : 福島 昇

担当研究員 : 田中 伸幸 (植物研究部 陸上植物研究グループ 研究主幹)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-853-8903 FAX:029-853-8998

E-mail: nobuyuki_tanaka@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

<内容の詳細>

(1) WWF新種レポートハイライトについて

- 世界自然保護基金(WWF:本部ジュネーブ)が大メコン圏(Greater Mekong: 中国南西部を含む東南アジア大陸部)から報告される動植物の新種の中から毎年特筆すべき10種を選定し、その種の発見の経緯と生態写真やその生育地の画像とともにウェブサイトで紹介しているものです。
- これは、大メコン圏の生物多様性の高さを一般に普及し、その地域の生物多様性の研究と保全に役立てるためにWWFが進めている活動で、2008年に大メコン圏からその年に報告された新種から10種を選び、発表したのが始まりです。その後も毎年続けられています。

(2) ツリフネソウの一種 *Impatiens kingdon-wardii* (インパティエンス・キングドンウォーディイ)について

- 特徴: WWFの特徴記載にもあるようにピンク色の側萼片が毛の生える円形で、つぼみの段階では雪洞のようです。開花すると2枚の側萼片が左右に花の上に開いた状態になり、マウスの耳のような形になります。花卉には棍棒状の突起がありますが、何のためなのかはよくわかりません。今回発見した種は形態的研究から明らかにツリフネソウの一種で、ツリフネソウ亜属 *Uniflorae* 節に属する新種と判明しました。ほかのツリフネソウの花には、このような突起があるものは知られていないようです。
- 学名: この特異的なツリフネソウは、現地の調査研究で存在が明らかとなりましたが、採集した標本を詳しく調べていく過程で新種であることがわかりました。ビクトリア山は、英領時代と1950年代にイギリスのプラントハンターとして名高いキングドンウォード卿が調査をしていました。そこで、その当時にも標本が採集されている可能性があると考え、彼の標本を収蔵する大英自然史博物館で調査をしたところ、1点だけ本種の標本を採集していました。そこで、キングドンウォード卿に種小名を献名しました。半世紀前に活躍したプラントハンターの名前がついた最新の種になります。
- 分布域: これまでビクトリア山周辺にしか知られていません。この地域は、ミャンマー西部のインドに近い地域です。今後、ミャンマーの他の地域やインド側での調査研究が進むとその他の自生地が明らかになるかもしれませんが、いまのところミャンマー固有種の可能性が高いと考えられます。
- 発表論文: NOBUYUKI TANAKA, TAKASHI SUGAWARA, MU MU AUNG & JIN MURATA *Impatiens kingdon-wardii* (Balsaminaceae), a new species from Mt. Victoria (Natma Taung), Myanmar *Phytotaxa* 234 (1): 90–94. [Doi.org/10.11646/phytotaxa.234.1.7](https://doi.org/10.11646/phytotaxa.234.1.7)
(論文のオンライン版は2015年11月11日に出版されており、この日付が新種の発表日付となる)

※この度の発見は「日本学術振興会科学研究費補助金(代表: 邑田仁)」による現地調査によるものですが、現在進行中の国立科学博物館の「総合研究」により、今後同地域からはさらに特異的な新種が発見されることが期待されています。

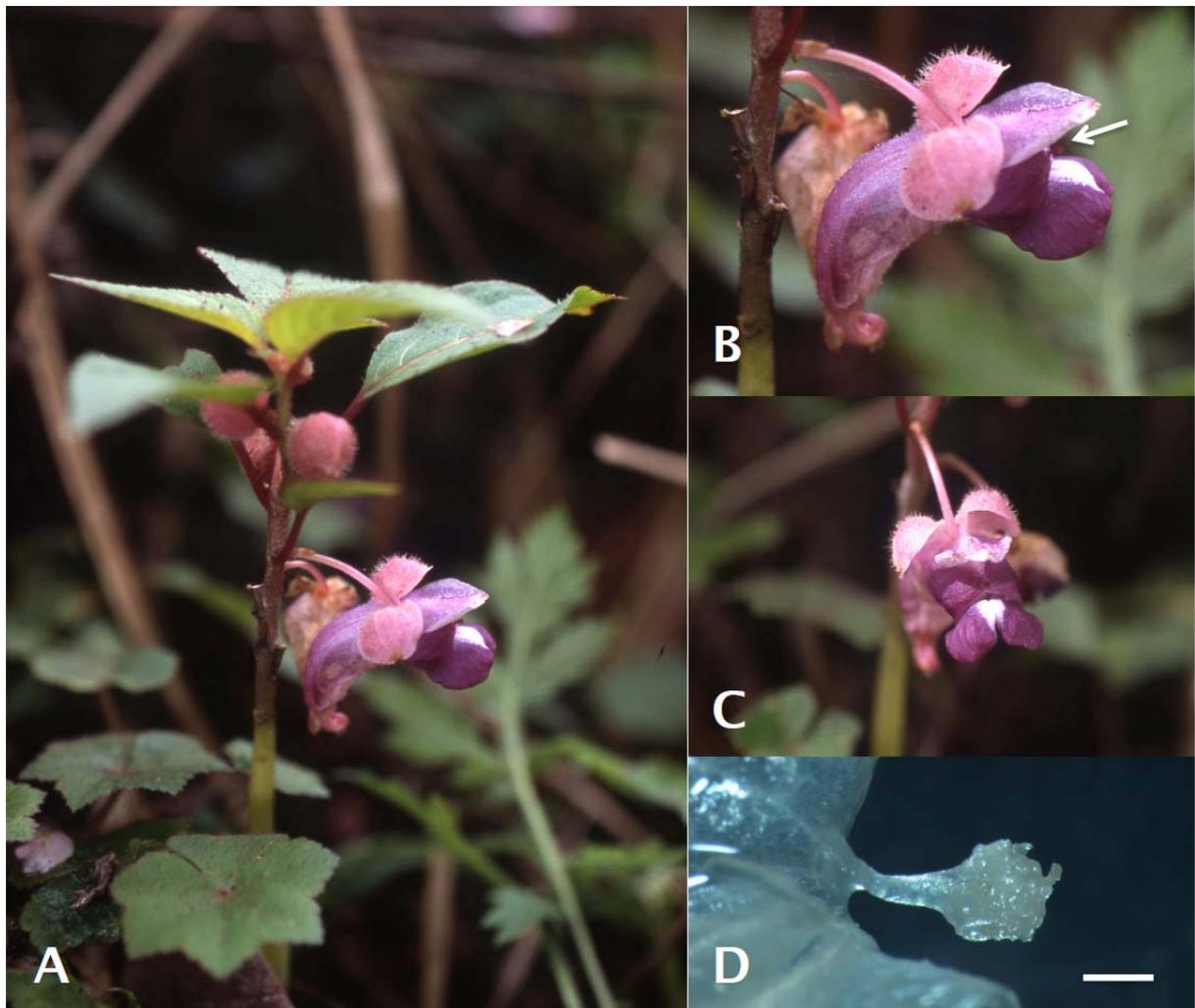


図 インパティエンス・キングドンウォーディイの写真

A 花をつけた個体 B 花の拡大(横)→の部分に棍棒状の突起がある C 花の拡大(正面)

D 棍棒状の突起の顕微鏡写真。



Purple Mouse-Eared Flower

Impatiens kingdon-wardii, Myanmar

A small purple flower with petals resembling mouse ears found atop Mt. Victoria in Myanmar.²⁷

Discoverers: Nobuyuki Tanaka, Takashi Sugawara, Mu Mu Aung & Jin Murata

Within the "Chin Hills" of Southwest Myanmar is Mt. Victoria, the highest mountain in the range at 3,015 m. As dusk neared on a particularly harsh and rainy day in 2002, Dr. Nobuyuki Tanaka made his way down a stream at the foot of the mountain, picking leeches off his arms and legs as he went. He noticed a small purple flower hiding under the shade of the foliage along the banks of the stream. Unknown to him at the time, the last person to collect a specimen of this flower was the legendary British botanist and explorer Frank Kingdon-Ward in 1956.²⁷

Dr. Tanaka had originally been drawn to Mt. Victoria because there had been no botanical research there since Kingdon-Ward's last survey in 1956.²⁸ Kingdon-Ward's explorations in Myanmar and the Himalayas in the early 20th Century led to many tales of adventure and new species discoveries²⁹, but *Impatiens kingdon-wardii* is the most recent species to bear his name.

Because Dr. Tanaka and his team were only able to find small populations of the species in locations within Natma Taung (Mt. Victoria) National Park at the base of the mountain, they have preliminarily assigned it to be Vulnerable (VU) according to the IUCN Red List Criteria. Dr. Tanaka is a project leader for a new partnership between the National Museum of Nature and Science in Tokyo and the Myanmar Ministry of Natural Resources and Environmental Conservation aimed at increasing floristic research in unexplored parts of Myanmar. They hope this project will lead to more new species discoveries in the region in years to come.²⁸

This little purple flower is another unique gem of the many endemic species within the *Impatiens* genus in Myanmar, but it is also a reminder that the age of exploration is far from over. Scientists like Dr. Tanaka are the new generation of explorers out to discover the unknown.

The "Chin Hills" where *Impatiens kingdon-wardii* was discovered.



©Nobuyuki Tanaka



©Jin Murata

DONATE TO